

=====
本メールマガジン[NEE Mail Magazine]は、経済教育ネットワークより会員の
皆様にお送りしております。
=====



◆ NEE Mail Magazine 112号 ◆

-----2018-5-7◆◇

五月、皐月、ゴールデンウイークはいかがお過ごしでしたか。
慌ただししい新学期の時期のあと、ここでちょっと一息ついて、次の授業構想を
たてられた先生もいらっしゃると思います。また、公式戦のシーズンで、休日
中も試合の監督や応援にゆかれた先生方も多いかもしれません。
政治も経済も、学校を取り巻く動きも時代の大きな変化を予想させるものが多く
押し寄せています。そんな連休明けの今月もネットワークの活動を報告すると
ともに、授業に役立つ情報を提供いたします。

【 1 】最新活動報告

18年4月の活動やニュースを報告します。

【 2 】イベントカレンダー・情報昇華

部会の案内、関連団体の活動、ネットワークに関連する情報などを紹介します。

【 3 】授業のヒント「目次を読もう」

【 1 】最新活動報告

*18年4月に行われた活動を報告します。(開催順)

■東京部会(No.99)を開催しました。

日時:2018年4月26日(木) 19:15~21:30

場所:慶應義塾大学三田キャンパス研究棟 446 会議室

主な内容:参加 15名

(1)3月の年次大会の当日の様子などが新井から報告されました。

(2)夏休み経済教室に関する内容の検討が行われました。内容の詳細はイベント
カレンダーの夏休みの経済教室の紹介をご覧ください。

必要なタイトル、サブタイトルの決定、授業紹介の担当者の組み合わせの変更など
が課題として残されましたが、近日中に決定してゆくことで了解されました。

(3)実践報告、参加者からの報告

a)鍋島史一氏(教育実践研究オフィスF)より、夏の教室に向けて、佐藤英司
先生(福島大学)との間での情報交換の様子と準備状況の説明がありました。
センターテストに代わる新テストの試行問題の分析から読み取れるこれからの

教育の課題を佐藤先生とのコラボで提起してゆきたいとの紹介がありました。

b) 杉田孝之先生(千葉県立津田沼高校)と金子幹夫先生(神奈川県立三浦初声高校)の夏の経済教室で紹介予定の授業づくりの紹介と検討が行われました。

まず、両先生からの報告があり、それを踏まえた検討では、二人が登場して、それぞれの持ち味や方法を生かして授業づくりをしている点では興味深いですが、ここまでの報告では二人が登場する意味がまだ見えないという指摘や、材料が豊富すぎるので一番大事にしているものをさらに抽出して行くと良いというアドバイスなどが出され、夏にむけてさらに検討を加えて行くことになりました。

c) 山田勝之先生(足立区立第四中学校)から、夏の教室で発表予定の内容の概略の説明がありました。

証券知識普及プロジェクトが作成した「ミスターXからの挑戦状」という教材を使った「企業をつくろう」という授業で、この教材を使うと教科書のここここを使えますよという提言をしたいとの説明がありました。質疑のあと、この方向で発表することになりました。

(4) その他参加者からの情報交換では、ネットワークの活動が取り上げられている雑誌『経済セミナー』2018, 4・5月号が紹介されました。

関連して、昨年の夏の教室の中学向けの講義で提示された、野間敏克先生(同志社大学)の授業モデルが紹介され、このモデルを活用した授業開発を目指したらどうかとの提案がされ、今後の検討課題にしてゆくことになりました。

部会内容の詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo099report.pdf>

■大阪部会(No.58)を開催しました。

日時:2018年4月28日(土) 18時00分~20時00分

場所:同志社大学 大阪サテライト

部会内容の詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka58report.pdf>

【 2 】イベントカレンダー

* イベント予定です。(開催順)

■先生のための夏の経済教室を開催します。

2018年先生のための夏の経済教室の会場と日程は以下の通りです。(既報)

8月2日(木) 名古屋中学向け 会場:ウインクあいち

8月3日(金) 名古屋高校向け 会場:ウインクあいち

- 8月6日(月) 大阪高校向け 会場:国民会館
8月7日(火) 大阪中学向け 会場:国民会館
8月9日(木) 東京高校向け① 会場:東証ホール
8月10日(金) 東京高校向け② 会場:東証ホール
8月16日(木) 東京中学向け① 会場:東証ホール
8月17日(金) 東京中学向け② 会場:東証ホール

内容の詳細は、正式に決定しだいHPに掲載いたしますが、主な講演、講義、授業提案の概略をご紹介します。(所属は略称です)

<今年を中心のねらい>

- ・授業提案は、こんな授業を作りましたという紹介ではなく、授業をいかに作っていったか、そのプロセスやノウハウ、舞台裏などを紹介してゆきます。実践家とエコノミストとのコラボでの提案や講義を多く準備して、一段と深められた教室を目指します。
- ・時代を経済学で読み解く講演や講義を提供します。

<中学校向け>

- ・経済の授業をエコノミストとコラボで作る趣旨の講義や授業提案が、三枝利多先生(目黒区立東山中)と野間敏克先生(同志社大学)が名古屋、大阪、東京会場、奥田修一郎先生(前大阪狭山市立南中)と篠原総一先生(京都学園大学)が大阪会場、中山義基先生(京都府立園部高・附属中)と加藤一誠先生(慶應義塾大学)が東京会場、行われます。

- ・現場の先生方からの授業提案が、升野伸子先生(筑波大附属中)と安野雄一先生(大教大附属平野小)が名古屋、大阪、東京会場、佐藤央隆先生(名古屋市立はとり中)が大阪会場、田丸明史先生(札幌市立西陵中)が東京会場、山田勝之先生(足立区立第四中)は名古屋、東京会場で、それぞれ行われます。

- ・また、授業提案では、東京会場、河原和之先生(立命館大学他)の授業とそれを杉田孝之先生(千葉県立津田沼高)が分析、質問する講義が行われます。

- ・大学の先生方からは、佐藤英司先生(福島大学)から中学教科書を使った授業提案が、河原典史先生(立命館大学)と加藤一誠先生からは防災を地理と経済から読み解く講義が、いずれも東京会場で行われます。

- ・東京証券取引所からは、東京会場、岡部ちはる氏が東証の金融経済教育への取り組みと新教材の紹介をする予定です。

<高校向け>

・講演では、諸富徹先生(京都大学)の財政と税の根本問題に関する講演、鹿野嘉昭先生(同志社大学)の金融における技術革新を巡る講演が東京会場で予定されています。

・講義では、栗原久先生(東洋大学)が名古屋と東京海上、大杉昭英先生(教職員支援機構次世代型教育推進センター)が大阪会場で、新指導要領に関する講義、佐藤英司先生と鍋島史一(教育実践研究オフィスF)氏による新テストから授業実践の改善を考える提案がされる予定です。

・また、安藤至大先生(日本大学)による労働と職業選択に関する講義が名古屋、大阪会場で、中川雅之先生(日本大学)が東京会場で、持続可能な社会づくりと公共経済に関する講義も予定されています。

・東京証券取引所からは、鈴木深氏から、基礎から学ぶ上場会社の講義が名古屋、大阪、東京会場で行われます。

・篠原総一先生の歴史シリーズも、東京会場で、江戸から明治の市場経済の変遷をテーマとして予定されています。

・授業提案では、杉田孝之先生がご自身の授業提案をするともに山崎辰也先生(北海道北見北斗高)とは名古屋会場で、金子幹夫先生(神奈川県立三浦初声高)とは東京会場でのコラボでの授業分析が行われます。埴枝里子(東京都立府中東高)先生と加藤一誠先生によるエコノミストとのコラボ授業提案は大阪会場で予定されています。

* 定例部会のお知らせです。(開催順)

■札幌部会(No.19)を開催します

日時:2018年5月19日(土) 14時30分~17時00分

場所:キャリアバンク セミナールーム

申し込みの詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/Sapporo/Sapporo019flyer.pdf>

■東京部会(No.101)を開催します。

日時:2018年5月28日(月) 19時00分~21時00分

場所:慶應義塾大学三田キャンパス研究棟 446 会議室

申し込みの詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo100flyer.pdf>

* ネットワーク関連の情報の提供です。

■ 雑誌『経済セミナー』でネットワークの活動が紹介されています。

『経済セミナー』(日本評論社)の701号(2018, 4・5月号)の大竹文雄先生(大阪大学)と小巻泰之先生(大阪経済大学)の対談「知れば得する経済学」に、ネットワークの活動が紹介されています。一部を紹介します。

・出前授業ではいくら頑張っても教えられる生徒の数には限りがあります。それなら、先生方に教えた方が影響力は大きいのではと考え、経済教育ネットワークという組織を立ち上げました。(大竹)

・中学校や高校のテキストが、われわれが期待しているものと違う。(大竹)

・夏休みの経済教室は、…高校の先生で経済学部出身が少ないので、経済的な考え方、あるいは知識を先生方が授業で使えるように伝えるという内容です。

(小巻)

今年の夏の教室では、両先生は登場しませんが、ネットワークの活動だけでなく、経済学を授業で活用するヒント、現在の中学や高校の教科書の問題などが豊富に紹介されています。

また、同じ号には、夏の教室で登場する安藤至大先生の文章も掲載されています。一度手にとってお読みいただくと良いと思います。

<https://www.nippy.co.jp/shop/magazines/latest/3.html>

【 3 】授業のヒント

■ もくじからストーリーへ

経済の授業は、中学は中間考査以降、高校は二学期以降が経済の授業になるケース

が多いと思います。そこで今回のヒントは、経済の授業を始める前にこころがけるとよいと思う取り組みを紹介します。この話は、金子幹夫先生(神奈川県立三浦初声高校)との対話のなかで得られたものです。

(1) もくじを読むと何がわかるか

もくじは本の全体像をつかむのに最もコンパクトに使えるものです。それをじっと眺めると、何がこの本では書かれているかが浮かび上がります。

具体的に見てみましょう。中学のT社のものです。

1 節が消費生活と経済(4)

2 節が生産と労働(4)

3 節が価格の働きと金融(5)

4 節が政府の役割と国民の福祉(4)

5 節がこれからの経済と社会(3) ()の数字は小項目の数、という内容です。これは、現在の学習指導要領の構成を踏まえたものだとわかります。さらに、節の中身がさらに細かく分かれてゆき、この教科書では、()内の数字を合わせると 20 あり、おおよそ 20 時間で経済を教えるのだなということがわかります。

(2) 幹と枝葉を分けてみる

この大きなもくじでいえば、まず消費を学び、次に生産を学ぶのだな。その上で、市場の動きと金融を学ぶのが前半、後半は市場だけではすまない問題を政府が担うことと関連して財政を学ぶのだということが理解できます。最後の部分は、まあおまけかなということも分かります。

さらに細かくそれぞれの節の内容をみてゆくと、あれあれと思うところがいくつか見えてきます。

例えば、1 節の消費生活では、家計が扱われ、契約と消費者問題に飛び、消費者の権利という法的な部分がいってきます。そして流通が最後に登場します。

2 節は、資本主義経済が定義され、そこから大企業・中小企業、株式会社と続き、労働者の権利、現代日本の雇用問題と続きます。

3 節となると、市場の仕組み、価格の動きがでてきて独占価格、公共料金まで学ぶと、いきなり貨幣と金融、金融機関、日銀の政策、景気と金融政策となります。

このあたりでやめておきましょう。

なぜ、あれあれなのかは、おわかりだと思います。幹の部分に枝葉がついていて、全体の流れや構造がみえなくなっているのではないかということです。

もし、この教科書で勉強する中学生がいたら、道路を行くときに、まっすぐゆくのではなく、右を向き、左を向き、上も見て、下も見るということで歩かなければいけないということになりかねないということです。

(3) ストーリーを持つ

かつては自主編成と称して、独自の授業をする余地がありましたが、現在の学校でそれはなかなか出来ない相談です。

では、こんな、何でもあり状態の教科書をどう使いこなすか。ヒントは、ストーリーです。ストーリーとは、経済の仕組みを学ぶにはどんな流れで物語ができるかを考えるととっても良いでしょう。

身近な生活から経済を始めるのは前提として、消費者問題や流通まで同じレベルで扱おうと、筋が見えなくなりかねません。消費を家計の経済行為と位置づけると、次は生産の担い手市場の理解となります。そこでは、労働問題までつまこんでゆくと、その先が見えなくなってしまう可能性がでてきます。大事だけれど、ちょっと置いておくということもあります。

消費(家計)と生産(企業)をつなぐものは市場になります。ここで市場と価格の役割を押えると、一段落です。

次は、市場では解決できない問題や市場の条件をととのえることを担う政府が登場します。財政が登場するわけです。

このような経済理解のストーリーをもって、授業にのぞむと、大事な部分、なぜこれが登場してくるのかという位置づけをもって教えることができるはずですよ。

(4) 残された問題

ストーリーを考えてもなかなかそこに組み込まれないものもあります。金融などはそれでしょう。

大事なことはわかるけれど、市場の理解から金融が登場する教科書のながれをどうストーリー化するか、これは簡単ではありません。

生活レベルでの金融から、マクロの金融政策までを一貫して扱うか、それとも分離して、財政政策と金融政策という形で扱うか、ストーリーにどう組み入れるか、これはエコノミストの意見も聞きながら、考えてみると良いでしょう。

また、枝葉だとした部分を幹と合わせてどう濃淡をつけながら教えるのかも課題になります。

今回のヒントは、課題がのこりましたが、経済の授業を始める前に、ぜひ、先生方の経済に対するストーリーをもくじを見ながら考えてみてください。(新井)

【 4 】編集後記(みみずのたはこと)

今回、授業のヒントを書くために、中学の教科書を何冊か読み直してみました。細部は良く出来ているという印象と、これって合成の誤謬じゃないかという印象を強く抱きました。

自縄自縛から抜け出す道はどこにあるか、それを示しつつ、一緒に考えてゆく役割をネットワークが担わなければという気持ちも同時に浮かびました。(新井)

=====
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページより
お手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>



編集・発行 : 経済教育ネットワーク

=====
(C) Network for Economic Education ◆◇